

## &lt;総括&gt;

出題数	現代文 2題・古文 1題	試験時間	90分
-----	--------------	------	-----

- ・言葉の意味と人間の心的活動との相互関係について論じた評論からの出題。
- ・本文の分量は昨年度より一頁ほど増加している。昨年度に引き続き、漢字の書き取り問題ではなく、すべて記述説明であり、設問数も四問と変化はみられない。ただし、解答欄の行数の合計は昨年度(12行)に比べ15行と3行増えた。
- ・本文の分量、記述分量も増加したが、総合的にみて、全体の難易度は、ほぼ例年並。
- ・昨年度同様、本文は文理共通だが、理系では文系で出題された問三がなく、全四問の出題となっている。

## &lt;本文分析&gt;

大問番号	日
出典 (作者)	佐竹 昭広 「意味変化について」
頻出度合 ・的中等	なし
分量 前年比較	分量(減少・やや減少・変化なし・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">やや増加</span> ・増加)
難易 前年比較	難易(易化・やや易化・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">変化なし</span> ・やや難化・難化)

## &lt;大問分析&gt;

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
日	評論	問一	記述式	標準	傍線部の内容を説明する問題。(解答欄3行) 直前の「認識しなお」すことと、直後の「重要な示唆」の内容を明確にして解答する。
		問二	記述式	標準	傍線部の内容を説明する問題。(解答欄4行) 傍線部以降から、自然がどのように「分割」(分節)されているかを丁寧に読み取る。
		問三	記述式	標準	傍線部の内容を説明する問題。(解答欄3行) 文脈を的確に読み取り、「言葉」によって感情が作られる側面をわかりやすく説明する。
		問四	記述式	標準	傍線部の理由を説明する問題。(解答欄5行) 人間の心と言葉の意味との「相互関係」を明らかにし、従来と比較した意味論のあるべき姿としてまとめること。

※難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## &lt;学習対策&gt;

- ・評論であれ随筆であれ、文章の主題や筆者の主張を全体から的確に把握するとともに、個々の文脈を正確に押さえる読解力が不可欠である。
- ・設問の意図を踏まえ、理解した内容を簡潔かつ的確に表現してみる訓練が欠かせない。
- ・今年度も漢字問題は出題されなかったが、読解力養成の前提として、その知識の蓄積を怠らないこと。

# 国語(現代文・古文) 京都大学 理系学部(前期) 2/4

<総括>	出題数 現代文 2題・古文 1題	試験時間 90分
<ul style="list-style-type: none"> <li>大問<sup>二</sup>は、人間的活動の一環としての科学の本質を文学や哲学の営みと比較しつつ、人類の全面的進歩に貢献するために科学自らの限界を自覚することの必要性を説いた文章。</li> <li>解答に必要な内容を過不足なく読み取り、それらを解答欄に収まるようにまとめるのは容易ではない。</li> </ul>		

## <本文分析>

大問番号	<sup>二</sup>
出典 (作者)	「科学と哲学のつながり」 (湯川秀樹)
頻出度合 ・的中等	なし
分量 前年比較	分量(減少・やや減少・ <b>変化なし</b> ・やや増加・増加)
難易 前年比較	難易(易化・やや易化・ <b>変化なし</b> ・やや難化・難化)

## <大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
<sup>二</sup>	評論	問一 問二 問三	記述式 記述式 記述式	標準 標準 標準	傍線部の理由問題。(解答欄3行) 傍線部の理由問題。(解答欄2行) 傍線部の説明問題。(解答欄4行)

※難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## <学習対策>

<ul style="list-style-type: none"> <li>大問<sup>二</sup>は、理系の単独の出題であるが、理系の受験生にとって問題の水準は決して平易とはいえない。共通問題<sup>一</sup>のレベルにも対応できるように学習しておきたい。</li> <li>文章のジャンルを問わず、単に字面を追うのではなく、その主題を本文全体から的確に把握するとともに文脈を精確に理解する読解力と、その内容を適切に説明する記述力が不可欠である。</li> </ul>
---

<総括>		出題数	現代文 2題・古文 1題	試験時間 90分
• 理系の問題文は、昨年と同様近世からの出題であった。 • 昨年と同様、解答数は3つであった。 • 設問構成は昨年と違い現代語訳2つと、説明問題1つであった。 • 昨年と異なり和歌に関連する設問がなかった。				

## &lt;本文分析&gt;

大問番号	三
出 典 (作者)	『肥後道記』(西山宗因)
頻出度合 ・的中等	出典・出題箇所は稀
分 量 前年比較	分量(減少・やや減少・変化なし・やや増加・ <b>増加</b> ) 約420字(前年約330字)
難 易 前年比較	難易(易化・ <b>やや易化</b> ・変化なし・やや難化・難化)

## &lt;大問分析&gt;

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
三	紀行	問一	記述式	標準	現代語訳。「比喩をあきらかにしつつ」という条件があった。「草葉も徳風のかうばしきになびきて」の比喩を明らかにすることと、それがどのような実意を持つのかがわかるように訳出するところがポイント。(解答欄2行) 説明問題。傍線部の内容説明問題で、傍線部の「こぞことし」「うさつらさ」「たがひに言葉もなし」を傍線部の前の内容を参考にまとめるところがポイント。(解答欄4行)
		問二	記述式	標準	現代語訳。条件が付いていなかった。「よすが」「行く末」「しらぬ里」「あらじ」などの語句の訳出がポイント。京大のこれまでの設問では条件を付けていない場合は逐語訳が原則であるが、補充をしない場合は解答には3行あれば十分で、指定の4行は広いと思われる。(解答欄4行)
		問三	記述式	標準	

\*難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・近世の文章が二年連続で出題されたので、近世の文章に慣れる必要があるが、それ以前には中世の文章からも出題されており、いろいろな時代・ジャンルの文章に慣れる必要がある。
- ・主語、目的語、指示内容などを考えながら、文章全体の内容を正確に理解する練習を平素からおこなっておくこと。それによって説明問題にも対応できるのである。
- ・本文全体を現代語訳できるかどうかが京大理系古文の根本である。現代語訳を記述する練習がいちばんに望まれる。
- ・今年は和歌にかかわる問題が出題されていないが、過去多くの年で出題されているので、修辞・現代語訳・趣旨の説明など、和歌の対策は必ずしておきたい。